

学生ボランティアを受け入れるにあたって思うこと



雄勝硯生産販売協同組合 製造管理部長
おがつ復興市実行委員会 実行委員長
高橋 頼雄

雄勝石を旧雄勝総合支所で洗う作業がはじめてだったのでしょうか？ あの頃、正直どこの学校か、どこの団体かわからず、目の前にある物、日々刻々と変わる事柄をボランティアとして来てくれる方々にお願いして片付けていました。仮設商店街『おがつ店こ屋街』のオープニングを目前に控えた寒い日でした。総合支所の玄関奥に置いてあった21cm四方の雄勝石タイルを洗いながら積み直しして頂きました。あの頃、お湯は無かったですよね。一生懸命、無言で洗って頂いたのを覚えています。その後、ボランティア・NPO活動センターと連絡を取りながらその都度必要な時期に必要なお手伝いをお願いしてきました。最近、主に雄勝のイベントのお手伝いをお願いしています。

自己紹介が遅くなりました、私、高橋頼雄と申します。雄勝硯生産販売協同組合で製造管理部長をさせていただきながら、おがつ復興市実行委員会という主に『おがつ店こ屋街』のイベントを企画、運営する会の実行委員長を仰せつかっております。お盆に行っている灯籠流しと11月に開催している『おがつ店こ屋街』の周年祭には特にお世話になっております。

震災から4年が過ぎ、この雄勝地区も少しずつ

変わってきてはいます。防災集団移転地は、造成が進み一部では完了して新たに家が建ち、新しい生活がスタートしました。漁業では、ホヤが今年から本格的に出荷され、早くから再開していたホタテやカキと合わせて浜は活気があります。雄勝硯生産販売協同組合も仮ではありますが、大きな工房が出来て仕事がしやすくなり、石皿などの工芸品を中心に順調に出荷しています。みんなそれぞれ前向きに一步一步進んでいます。

龍谷大生の皆さんとももうすぐ丸4年ですね。京都からバスで十数時間。そんな移動の疲れも見せずに、イベントの際は全力で盛り上げてくれます。夜にお話しをさせて頂く時にも、真剣に聞いてくれます。ボランティアとして皆さんを受け入れてきたというよりも、一緒に行動してくれる若い仲間という感覚で接しています。

震災で大きな痛手を受けましたが、こうして皆さんとの繋がりが出来た事。それがわれわれにとって大きな事です。この繋がりを大事に大事にして町が良い方向に向かうといいな。そう願っております。これからも永いお付き合いを宜しく願います。

